決断に悩むクセルクセス

渡辺　浩

A：新年おめでとうございます．この列伝もいよいよ2年目に入りますね．

Ω：おめでとう．ここ2回ばかりペルシャに関する話がつづいたが，今日もペルシャの大王クセルクセスをとり上げることにしよう．なにしろ当時のペルシャはそれまでの世界史上最大の帝国で，メソポタミア，エジプトの両古代文明の遺産を支配していたのだから，こういうあつかいになるだけの理由はあるといえるだろう．

アテナイの援助を受けたイオニア人の反乱によってサルデイスが炎上した，との報告をきいたダレイオスは，アテナイへの報復を誓ったが，イオニアの反乱が鎮定された翌年，その娘婿のマルドニオスを軍司令官に任命し，陸海軍部隊を与えてギリシャに向かわせた．陸軍部隊はダーダネルス海峡を渡り，すでにペルシャに服属していたトラキヤを平定しつつ通過し，マケドニアを攻撃，征服した．海軍部隊はタソス島を占領したが，ここは昔フェニキア人タソスが発見・開発したといわれる金鉱で富み栄えていた．艦隊はさらにエーゲ海北岸を西進したが，カルキデイケ半島から東南に伸びるアトス岬を回るところで暴風に襲われ，多数の艦船を失なった．こうして第1次遠征軍は帰還した．

ダレイオスはさらに本格的な遠征の準備として，まだペルシャに服属していないギリシャ本土の主要都市に使を送り，“大王に土と水とを献じよ”と要求した．スパルタやアテナイはこれを拒否したが，エーゲ海の島々の諸市のほとんど全部，本土でも少なからぬ諸市がこの要求にしたがった．

前490年ダレイオスはダテイスとアルタプレネスの2人を軍司令官とし，諸民族から動員した陸軍部隊を600隻の3段櫂船に乗せて，エーゲ海中部をキュクラデス諸島沿いに西進させた．ナクソス島，エウボイア島のカリュトスとエレトリアは炎上し，または征服された．ついでペルシャ軍はアッテイカに上陸したが，ここで有名なマラトンの戦いがおこり，ペルシャ軍の企図はわずか1万のアテナイの重装歩兵部隊によって阻止された．このアテナイ軍の指揮をとったのは，かつてダレイオスのスキュテイア遠征に従軍し，イストロス河からの撤収を主張したミルテイアデスだった．

ダレイオスはいよいよギリシャ征服に情熱を燃やし，支配下の諸港市には艦船の建造を，諸国には人員，馬匹の動員準備を命じた．ペルシャには追放されたアテナイの前独裁者ヒッピアスが前から亡命してきていたが，2人王制のスパルタでクレオメネスとならぶもう1人の王だったデーマラトスも，内紛によって王位を追われ，この頃ペルシャに亡命してきた．

ダレイオスが第3次遠征の準備に熱中しているとき，エジプトが離反した．ダレイオスはその鎮圧に自ら出陣しようとした．こういうときには後継者を指名しておくのがペルシャの慣習だった．ダレイオスには王位につく前とついた後と2人の妻があり，後者は大征服者キュロスの娘だった．前妻の長子アルトバザネスと後妻の長子クセルクセスとの間の後継争いになった．デーマラトスの入れ智恵で，スパルタでは継承権は王位についた後の最初の子に，の論法でクセルクセスが指名を得た．まもなくダレイオスはエジプト遠征の準備中に死に，クセルクセスが王位を継いだ．

王となったクセルクセスにとって第1の課題は，父王の遺志であるエジプト遠征を実施することだった．それは帝国の瓦解を防ぐために不可欠だったが，それに対しギリシャを征服して帝国をこれ以上拡大することは，とくに必要なこととは思えなかった．しかし王位について見ると，王座を取り囲む権臣たちの中には，王に向かって“エジプト征服はもちろん必要ですが，その後にはギリシャ遠征をお忘れになりませんように”と説くものが少なくなかった．第1回遠征の司令官アルドニオスは，将来ギリシャ総督に任命されることを期待しつつ，ギリシャの国土の豊かさ，美しさを王の耳に入れて，その征服欲をかきたてた．またギリシャから亡命の前述のヒッピアス，デーマラトスはいうにおよばず，その他にもテッサリヤの王家やその他の亡命者があって，地理や内情について報告し，“大王のご親征をお待ちします”とか，“ムーサイオスの託宣によれば，ダーダネルス海峡はペルシャ人の手によって架橋される定めになっています”などと追従を交えた進言をする者が多かった．

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

ダレイオスの死の翌年，クセルクセスはエジプトの反乱を鎮圧し，アカイメネスをその総督に任命し，以前よりも苛酷な条件で統治させた．アカイメネスをライバルと考えていた若いマルドニオスは，ますます自分に相応した地位はギリシャ総督しかないと考え，王に対し遠征をすすめた．

クセルクセスはついにギリシャ遠征の腹づもりを固め重臣たちを集めて会議を開き，その冒頭で演説した．まず，偉大な征服者であった諸先王の偉業を継承していこうとする自分の意図を述べ，ダーダネルス海峡に架橋してギリシャに進攻し，アテナイに報復する決意を語り，ギリシャの征服は全ヨーロッパ征服の足がかりになることを説き，重臣たちの奮起を要望するとともに，なんなりと意見があれば申し述べよ，とつけ加えた．

王の言葉を受けてマルドニオスは，王の決意を称揚し，ギリシャ人は恐れるにたりない弱小民族であり，勝利はまったく疑いないもので，ただあえて試みることが必要なだけである，と結んだ．こうなると他の重臣たちは発言を控えてしまったが，ただ1人ダレイオスの弟のアルタバノスは，勇気をふるって口を開いた．自分は先王のスキュテイア遠征に対しても諫止したが，結果はそのとおりであったこと，ギリシャ人はスキュテイア人よりもはるかに優秀で強力な民族であること，もし海軍部隊がギリシャで破れた場合を想像すれば，イストロス河の渡河点で先王と帝国の命運が1人のイオニア人の掌中に握られたのと同じことが，ダーダネルス海峡で再現しうること，計画は密なるがよく，動物の中でも神の雷撃を受けるのは大型のものだけであり，大軍も驕慢の心によって寡兵に破れることがありうること，を説き，アルドニオスの態度を叱責したうえで，本日の案件は陛下自らよくご思案のうえ，あらためて適当なときにおきかせくだいますように，と結んだ．クセルクセスはこれをきくと立腹し，遠征への強い決意を語り，アルタバノスの地位を考えて処罰することは差し控えたが，皆の前で彼をののしり辱めた．

しかしその夜になると，クセルクセスにはアルタバノスの言葉が気になりはじめ，一夜中1人で思いめぐらして，やはりギリシャ遠征はすべきではないとの判断にかたむき，他方それを明朝重臣たちに告げる場合の自分の面目のなさ，しかし問題のいろいろな側面を考量したうえで到達した理性的な判断の重み，などと思いまどろむ彼の夢の中に1人の偉丈夫があらわれて，昨日人々の前で公言した計画を中止することは許されまいぞ，と言葉を残して消えた．

A：綸言汗のごとし，ですか．しかしとうとう夢の話まで出てきましたね．

Ω：クセルクセスのつぎのアルタクセルクセスの時代に旅行者として王都を訪問したギリシャ人ヘロドトスが，いくら話のきき上手だったからと言って，先王の決定的瞬間の内心の動きを刻明に伝えてくれる人があったとも思えない．当然ここのところは，歴史としてよりは物語として読むことになる．それを承知でつづけよう．

夜が明けるとクセルクセスは昨日の重臣たちを集め，昨日のアルタバノスへの叱責の言葉を取り消し，自分の未熟と不明を認め，遠征の取りやめの決意を表明した．重臣たちの顔には喜びの表情が浮び，一同平伏した．

この後にもう少し奇怪な夢の話がつづき，結局アルタバノス王にかわってその寝所に眠ると同じ人物の夢を見る結果になり，2人は遠征は神霊の意志であるとの判断に合意したというミステリーになっている．

クセルクセスはあらためてギリシャ遠征を告示し，重臣たちは各領国に帰って出兵の準備にあたった．リビア，エチオピアからインダス河流域，中央アジアにいたる各民族の徴募可能人員が調査され，歩兵，騎兵，補給部隊の動員数が割りあてられ，補給物資の調達，蓄積がなされた．地中海沿岸の諸港市は軍艦，架橋用の長船，馬匹運搬船の建造を割りあてられた．エジプト人とフェニキア人にはダーダネルス海峡に各1本の船橋の架橋が命ぜられ，他の部隊にはストリュモン河その他の大中小河川の架橋，修復，拡幅が命ぜられた．第1次遠征軍の遭難したアトス岬には，平野と丘陵からなる岬のつけ根を横断する，長さ2kmの運河の掘さくが検討された．船を引いて越すようにすることもできたが，クセルクセスは2隻の3段櫓船が櫂を使いながら並進できる幅の運河を掘るように命じ，各民族に各区間を分担させた．その両側の出入口は防波堤で守られた．各地で調達された補給物資は，運河掘さく地点や架橋工事の現場に供給されるとともに，トラキヤからマケドニアにいたる遠征路上の要所々々の補給基地に輸送され，蓄積された．

A：ものものしいですね．まさかＰＥＲＴも使われたとおっしゃるのじゃないでしょうね．

Ω：ＰＥＲＴが使われたとはどこにも書いてないようだね．しかしそれまでの史上最大の動員がなされ，その準備の計画，実施，フォローアップの作業も最大規模だったことは間違いない．こうして準備に4年間が費され，架橋と運河が完成すると，各地から出動部隊が逐次小アジアに向かって進発し，サルデイスに集結した．

〈つづく〉（筑波大学社会工学系　わたなべ・ひろし）

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．